

## 第2回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会

### 会議要旨録

日 時	平成24年2月17日（金） 9時30分～10時45分
場 所	瑞穂市役所 穂積庁舎 2階会議室
出席者	会 長 樋下田 邦子 副 会 長 國枝 武俊（欠） 委 員 大野 清貴（欠） 〃 鎌倉 美里（欠） 〃 木野 良英 〃 棚橋 春雄 〃 玉城 栄之功 〃 東海 龍明 〃 野田 寧宏 〃 廣瀬 彌恵子 〃 矢野 幸子 〃 矢野 輝子 〃 矢野 敏雄 〃 山崎 幸輝
事務局	福祉生活課
会議の公開	公 開（傍聴者 0名）

#### 1 開会

#### 2 部長あいさつ

福祉生活課長の代理によるあいさつ

#### 3 会長あいさつ

樋下田会長によるあいさつ

傍聴希望者の確認 傍聴希望者なし

#### 4 議題

##### (1) アンケート結果速報について

【事務局】

（資料説明）

##### (2) 各事業所ヒアリングについて

【事務局】

（資料説明）

(3) 計画策定に向けて

【事務局】

(資料説明)

【会長】

では、各委員より、ご意見等ありましたら発言願います。社会福祉協議会の活動計画との関係についてはどのようにお考えですか。

【山崎委員】

社会福祉協議会の活動計画は平成17年の3月に策定していますが、見直しの時期とは特に関連しません。今後どのようにして整合性を取っていくのかが疑問です。

【事務局】

計画策定の時期にあわせ、社会福祉協議会の活動計画も同時に見直しを行っていくことが最も効率的な方法であると思います。

しかし、すでに実践計画としての活動計画は動いていますので、社会福祉協議会の活動計画を見直さないで、地域福祉計画を策定するためには、活動計画の中で問題となっていること、課題となっていることに対して、どのような支援を行っていくかを明記していくということで、関連性を図ることになると思います。

【野田委員】

瑞穂市の老人福祉計画、もとす広域連合の介護保険事業計画とあります。そちらのほうとも整合を図っていく必要があると思います。

社会福祉協議会とは、市の福祉部を通じて連携を取れるかと思いますが、広域連合の計画と連携を図るということはなかなか難しいと思います。

アンケートについても、もとす広域連合が行っているものもありますので、難しいとは思いますが、そのあたりとマッチングできればいい計画ができるのではないかと思います。

各務原市役所に訪れることが多いのですが、各務原市の社会福祉協議会は会長を市長が努めており連携が取りやすい状況であるといわれています。広域連合については、瑞穂市の堀市長が会長をされているということで、連携を取りやすい部分はあります。市と社会福祉協議会、広域連合との連携を上手く図ってもらいたいと思います。

【矢野（幸）委員】

計画を策定するのは24年度ということですか。

【事務局】

今年度、アンケート調査を行いましたので、来年度、1年間をかけて計画を策定する予定です。

【玉城委員】

クロス集計の項目についてですが、一例ですが、地域の愛着という項目に対して居住年数でクロスをかけるということが資料で示されていますが、このようなクロスをかけることで何を分析しようとしているのか、どこにつなげていくためのクロスなのかを教えてくださいたいと思います。

例えば有償ボランティアという項目についてクロスをかけることによって、どのような方向性を持たせようとしているのか、何を分析しようとしているのか、クロスをかけることによって何を読み取ろうとしているのかを教えてくださいませんか。

### 【事務局】

分析の考え方で重要になってきますのが、今、委員の意見にありましたように、どのような仮説をたてて、それに対する結果についてどのような行動を起こしていくか、どのような方向性を示すかが重要になります。

具体的に何を行うかを検討する場合には、市の方針や社会福祉協議会がすでに取り組みられている事業等ありますので、そのあたりとの整合が必要になります。

整合については、来年度の計画策定時に検討していく必要がありますので、今回のアンケート分析で、検討材料となるものを1つでも多く抽出しておくことが、クロス集計の目的となります。

### 【玉城委員】

有償ボランティアを例にあげたのは、このアンケートの結果が公表され、「有償ボランティアに賛成だ」ということになった場合、舵を切り替えることができるのかと不安に思ったからです。具体的な見通しのないままアンケートの結果を公表しても、後々、具体的な事業や施策の方向性の舵きりが難しくなると思いますので、よくよくクロスの項目について精査しなくてはいけないのではないのでしょうか。

### 【会長】

そのほか、意見や質問はいかがでしょうか。

ボランティア活動について、小学校区や居住年数は関係性が薄いのではないかと思います。単純集計の結果から、持ち家の人も多くなっていますので、持ち家の人ほど地域に愛着を感じているという関係性がみられるのではないかと思います。

ただ、地域の助け合いという部分については低い結果となっていますので、地域の愛着と助け合いといった部分について、みえる分析ができればいいのではないかと思います。

### 【矢野（幸）委員】

アンケートも住民の声だと思いますが、若い人、居住年数の少ない人の声というのも重要だと思います。そのような人の意見を拾うということからも、来年度の地域懇談会を重要視してほしいと思います。

昔は小学校低学年の子どもであれば、放課後は友だちの家に遊びに行っていて、そこで友だちのお母さんなどと知り合いになって、というつながりができたと思います。

しかし最近は小学校においても、個人情報保護ということで連絡簿を回さないということがあります。子ども同士は友だちになっても、親同士は顔も知らないということもあります。昔は子ども同士、親同士のつながりの中で子どもの成長が育まれ、人間関係が形成されてきたと思いますが、今はそのような関係もなくて非常に窮屈に感じます。

アンケートからは出てこない地域の声というものを、地域懇談会のときにもう少し細かな年代からも意見が拾えられるようにしていけばいいのではないかと思います。

### 【会長】

アンケートで、「地域に愛着がある」との回答は8割くらいあったと思います。しかし、その理由をみると「買い物等が便利だから」という理由が最も高くなっています。便利だということは、人付き合いがなくてもよいということで、不便があったときにどうするのだろうと思いました。

地域懇談会を開催しても、若い人はなかなか参加してくれないかもしれませんが、若い人だけ集めるなど、そういった年代の意見も反映して計画を策定しては

しいと思います。

**【玉城委員】**

地域への愛着を感じている理由で、子育てのしやすい環境、高齢者にやさしい環境という回答が低くなっています。しかし実際には自治会の活動というのも活発に行われていますし、福祉情報の入手についても広報が活用されており、自治会の回覧板もよく活用されています。ボランティアへの参加希望というのも高くなっています。住民の互助的な意識というのは高いのではないかと感じるのですが、なぜ地域への愛着の理由の中では、高齢者にやさしい環境などが低くなっているのか不思議に思います。このあたりの関係性などを把握できるような分析ができればおもしろいかなと思います。

**【矢野（輝）委員】**

高齢になってくると、子育ても終わり、時間の余裕もでてきますので、交際範囲や行動範囲というのも充実してくると思います。買い物の便利さということについても、地域によって交通事情も違いますので、差がでてくるのではないかと思います。

住んでいる場所によって違いがあると思います。マンションなどに住んでいる人と、郊外に住んでいる人では同じアンケートでも結果が変わってくると思いますので、アンケートだけで計画を策定していくのは無理があるのではないかと思います。

**【矢野（敏）委員】**

自治会での活動が活発化しているといいましても、以前から住まわれていた人と新しく引っ越してきた人の中には溝のようなものがあります。この溝をいかにして埋めていくかということが、どこの自治会も悩んでいることではあると思いますので、この問題をどのようにして解決していくかということが重要であるといえます。

**【廣瀬委員】**

民生委員の認知度が低いという結果がでています。年齢によって、認知度というのは違うとは思いますが、広く市民のみなさんに知っていただけるようにしていかないといけないと思います。

**【木野委員】**

アンケートもそうですが、今後、多くの人々がどのように関わって計画を策定していくことができるかが重要かと思います。

**【棚橋委員】**

市民2,000人に対するアンケートで、回収率が43.7%ということですが、アンケートに回答しなかった人の意見も把握していくことが必要ではないのかなと感じています。

**【東海委員】**

棚橋委員の意見にありますように、アンケートの回収できなかった人の意見をどのように把握していくかだと思います。アンケートに回答した人の中でも、6、7割は地域活動などに興味がない人だと思いますので、今後、どのように意見を把握し、具体的な取り組みにつなげるかが重要ではないでしょうか。

**【野田委員】**

広域連合が行ったアンケートで、穂積地区だけといった集計もできていると思いますので、その結果も上手くマッチングさせていただければ良い計画になるの

ではないかと思えます。

災害があったときに、家族、地域の人を頼るのが普通かと思いますが、今回の結果で行政の割合が非常に高かったことが気になりました。一番頼りにできない行政を第一に頼りすぎているという部分も課題であるかと思えます。

**【矢野（幸）委員】**

アンケート分析結果について、見せてもらうことはできるのですか。

**【事務局】**

取りまとめた報告書につきましては、ホームページ等を通じて公表する予定です。

5 その他  
(特記連絡事項はなし)

6 閉会